



香川県立中央病院
Kagawa Prefectural Central Hospital

れんけい

題字：松尾信彦書

医療セミナーを開催しました。

平成25年8月8日(木)19:00から、当院10階会議室において、「食道がん並びに食道胃接合部がんについて」と題した医療セミナーを開催しました。講師は消化器・一般外科の大橋龍一郎部長でした。参加者は医師等55名で、院外からも21名の先生方にご出席いただきました。

日本と世界における食道がんの状況や、食道がんの初発症状、治療法、食道胃接合部はどこか？など、最新のトピックを交えた興味ある講義となりました。また伏臥位による胸腔鏡下手術の映像も披露され、ビジュアルな分かりやすい講義に、参加者の皆さんも聞き入っていました。

今後も当院における医療を代表し、興味ある様々なテーマを取り上げて、皆様のお役に立つ医療セミナーを積極的に開催していく予定です。是非ご参加下さい。



職場紹介 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

耳鼻咽喉科・頭頸部
外科診療科長 平田裕二

当院、耳鼻咽喉科・頭頸部外科は本年6月より平田診療科長、金井医師、大道医師の3人の新体制で診療を行っています。

外来診療では地域の先生方との連携を大切に、地域の中核病院となるように努めていきます。耳鼻咽喉科は、中耳炎や扁桃炎などの急性炎症、アレルギー性鼻炎や副鼻腔炎などの鼻疾患、舌癌や喉頭癌などの腫瘍性病変など、脳と眼以外の頭部から頸部のほとんどすべての疾患に対応いたしますので、気になることがある方は受診してください。また、耳鼻咽喉科疾患は外見・機能に関わるものが多いため、ただ病気を治すだ

けではなく、治療後の合併症をより少なくするため他の診療科やコメディカルとも協力し少しでも術後QOLが向上するように努めております。

治療の一部をご紹介しますと、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎に関しては、通常の薬物療法では効果が乏しい方には積極的に内視鏡手術(副鼻腔手術、後鼻神経切除術、鼻粘膜焼灼術)をし、アレルギー性鼻炎に対する急速減感作療法(免疫療法)も取り入れております。

頭頸部癌に関しては、手術、放射線、化学療法を組み合わせる集学的治療を取り入れ、本年から頭頸部癌で初めて適応になった分子標的薬を用いた治療も積極的に取り入れております。

常に質の高い耳鼻咽喉科医療を提供するように頑張りますのでよろしくお願い致します。



データで見る中央病院「血液内科」

血液内科診療科長 川上公宏

香川県立中央病院の血液内科は、主に造血器腫瘍(白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫など)の抗がん剤化学療法と造血細胞移植(骨髄移植など)を行う診療科です。その他には、特発性造血障害(赤芽球ろう・再生不良性貧血・骨髄異形成症候群など)や止血・凝固機能障害(血友病・特発性血小板減少性紫斑病など)に対する治療も行ない広く血液一般の診療も行っています。

当院では、他のがん専門施設と同様に、がん化学療法の安全性および有効性を向上する目的で、レジメンシステムという一連の抗がん剤に補助療法も含めた抗がん剤投与方法を採用しています。使用したレジメンの回数が化学療法を適応している数とほぼ同様なので、血液内科での1年毎のレジメン適応数の推移を検討してみました(グラフ参照)。2009年には700であったものが

2012年では1,110と増加しています。現在までの経過から推測しますと2013年は更に増加すると予想されます。

造血器腫瘍は抗がん剤化学療法の有効性が高い事が多く、元来血液内科は、腫瘍内科同様に抗がん剤化学療法の頻度が高いのですが、がん化学療法のパラダイムシフトをもたらした分子標的薬の登場により更にその頻度が増している事を反映していると思われます。またDPC全国統計で見ますと、香川県の約3割の造血器腫瘍を診療しています。高齢化に伴い悪性リンパ腫をはじめとする造血器腫瘍も増加傾向にあり、当診療科での診療回数も増加しています。

新病院では、無菌フロアーを有するがんセンター内において入院治療を行い、更に充実した外来通院治療センターで外来治療を行います。また輸血センター内にセルプロセッシングセンターに準じた部屋を設け幹細胞治療の充実を図る事を目指しています。



禁煙外来について

呼吸器外科診療科長 青江 基

禁煙外来(きんえんがいらい)は、たばこをやめたい人向けに作られた日本における専門外来の科目です。初診時ニコチン依存症と簡易検査で診断された喫煙者には健康保険の保険適用がされています。近年の健康志向、喫煙の健康被害の認知より、全国では14,623医療機関(全医科医療施設の13.4%)、香川県下では145医療機関が四国厚生支局に届け出て禁煙治療を行っています。当院は、平成21年より禁煙外来を開設し、これまでに89名の患者さんを完全禁煙達成者(卒煙者)に導いています。当院の特徴は、県下で10施設しかない、日本禁煙学会の指導専門/認定者が治療を担当する施設であり、有資格の医師、薬剤師、看護師が、各々の立場から充分時間をかけて禁煙指導、ときに精神的なサポートまで行っていることです。専門外来で、30分に1名の予約に限定しており、患者さんの「なぜ喫煙がやめられないのか」を、家族構成、職歴、生活習慣まで掘り下げて、一緒に考えることで、他の施設より高い卒煙率(開設以来の禁煙導入率85%)を誇っています。

禁煙したいけどなかなかやめられない、何度指導しても禁煙しない、などの患者さんがおられましたら、是非、ご紹介頂ければと思います。

(スタッフ 看護部:酒井奈奈、柗木純子 薬剤部:安部浩美、笠井実和、鎌田瑞菜)



第5回香川県立中央病院緩和ケア研修会を開催しました。

7月27日(土)、28日(日)の2日間、当院において、平成25年度緩和ケア研修会を開催しました。院外からの7名を含む22名の方が参加されました。

緩和ケアとは、ターミナルケアを意味するものではなく、治療中も含めたあらゆる過程において、がんによる患者さんの苦痛を予防し、緩和することにより、患者さんと家族のQuality of Lifeを改善する取り組みです。研修会では、身体的な痛みの緩和から精神的なケアまで、幅広いテーマで講義やワークショップが行われました。

香川労災病院の北浦道夫先生の講義では、がん性疼痛の評価と治療についてお話いただき、同病院の小山文彦先生の講義では、不安や抑うつ等の精神的な緩和のことについてお話いただきました。また、敬二郎クリニックの三宅敬二郎先生の講義では、在宅診療の必要性についてお話いただき、香川大学の岡田宏基先生の講義では、患者さんとのコミュニケーションについて、ワークショップを交えてお話いただきました。さまざまな観点から緩和ケアを捉える素晴らしい内容に、参加された皆さんは大変熱心に聞き入り、積極的にワークショップやロールプレイングに参加されていました。

国によるがん対策推進基本計画では、がん診療に携わる全ての医療従事者が、基本的な緩和ケアを理解し、知識と技術を習得することを目標としています。がん診療拠点病院においては、この研修会の開催が義務付けられており、今回の研修を終えられた方には、厚生労働省健康局長からの修了証書が授与されました。また、日本医師会の生涯教育講座として5単位が認められています。

これからも、緩和ケアについての基本的な知識習得を支援するため、より充実した内容の研修会を開催して参ります。多くの先生方のご参加をお待ちしております。



医療セミナーの開催予定

地域医療機関の先生方を対象とした医療セミナーを開催します。

- 日時:平成26年1月16日(木)19時00分より ● 場所:当院10階会議室
 - テーマ:**オンコロジーエマーゼンシー** 講師 当院 呼吸器外科 青江 基、救命救急センター 岡 智
- 多数の先生方のご参加をお待ちしています。

医療セミナーを開催しました。

毎年恒例の、医療セミナーが今年も、6月13日(木曜日)に、ルポール讃岐にて開催されました。

今年のテーマは、「がん地域連携パスについて」ということで、講師は、呼吸器外科診療科長で、香川県がん診療連携協議会パス部会長として香川県内の5大がん地域連携パス作成および運用を手がけてきた青江 基部長でした。参加者は医師等41名で、院外からも14名の先生方にご出席いただきました。

講演の内容は、がん診療における地域連携の重要性、香川県で統一されたがん診療での地域連携パスの種類とその特徴、最新の運用実績、今後の課題などについてでした。この分野は、地域医療の拠点病院としての責務を果たす上からも、新病院に向けて充実して行かなければならないと考えております。

これからも、地域の医療機関の皆様にとって興味あるテーマを取り上げてセミナーを開催して参ります。どうか積極的なご参加をよろしくお願いいたします。



かんわ支援チームの活動について ~緩和ケア外来のご案内~

みなさんは「緩和ケア」という言葉に、どのようなイメージをお持ちですか？

「がん治療ができなくなった方への看取りの医療」、「がんの終末期に受けるもの」と思われていませんか？ 緩和ケアは身体や心の“つらさ”を和らげ、がんと向き合う患者さんを支え、自分らしい生活を送ることができるようにするためのものです。緩和ケアはがんと診断された時の精神的ショックに対するサポートから始まります。がんの治療と並行して緩和ケアを受け、“つらさ”を和らげることにより、がんの進行を遅らせるというデータもあります。

当院には緩和ケア外来があります。予約制で、主治医からの紹介状が必要です。受診をご希望の方はまずは主治医にご相談ください。

緩和ケア外来 木曜日16:00~17:00
担当医師 第1・4・5週:鈴鹿医師、第2・3週:馬場医師

また、がんが進行してくると、体の痛みや吐き気、倦怠感、不眠、不安、生きる意味の喪失感など様々な症状がでてきます。かんわ支援チームは、それらの症状を緩和するためのサポートを多職種が協力して行います。当院では特に作業療法に力を入れています。

作業療法は、主に日常生活における動作がスムーズにできるための練習やマッサージなどを行っていますが、そのほか、折り紙や編み物、七宝焼き、皮細工、人形作り、書道などの作品作りを、患者さんのご希望や体力に合わせて行っています。作品を作ることで、家族との絆を深めたり、生きる希望の支えになったり、生きる意欲につながったりします。病状が悪化し、生きる希望を見失い悲嘆に暮れていた患者さんが、作品作りを通して自分自身の存在価値を再確認するきっかけとなったことや、幼い子供さんたちやご主人へ、母親であり妻である自分が生きていた証を形にして残されたこともありました。写真は患者さんが作られた作品の一部です。

緩和ケアは単に痛みを和らげるだけのものではありません。緩和ケアを受けたい方は遠慮せず、医師・看護師にご相談ください。かんわ支援チームがサポートいたします。

かんわ支援チーム 鈴鹿 伊智雄、石崎 恵美



医師の人事異動

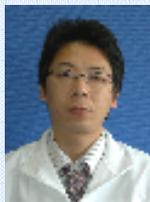
自己紹介は、①出身大学 ②卒業年 ③趣味 ④抱負 です。



河北 祝史 (循環器内科)

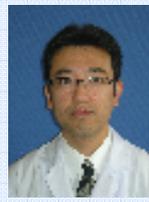
7月1日付

- ① 岡山大学
- ② 平成22年
- ③ 読書
- ④ 微力ながら、精一杯頑張る所存です。よろしくお願ひします。



田中大介 (泌尿器科)

- ① 岡山大学
- ② 平成22年
- ③ ドライブ
- ④ 微力ではありますが日々修練を重ねて地域医療に貢献できるように力を尽くしていきます。



平田 裕二 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

6月1日付

- ① 高知医科大学
- ② 平成16年
- ③ ゴルフ
- ④ 地域中核病院として、地域医療に貢献できるように頑張ります。



大西 藍 (麻酔科)

5月1日付

- ① 岡山大学
- ② 平成16年
- ③ 旅行、最新家電情報チェック
- ④ 微力ながら精一杯努めさせていただきます。

転入

転出

5月31日付 山下泰司 (整形外科)

堀 泰高 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科)